

平成 26 年 7 月 1 日発行
第 189 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel:(0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax:(0548)32-1280

「『大丈夫、なんとかなる』と言い聞かせ『信じ込み 進む力』」

- 「想像を絶するプレッシャー・極限の精神状態」 期待の中で戦える幸せを感じて - W杯ブラジル大会 日本は ~

「2014年 サッカー第20回 W杯 ブラジル大会を堪能し - 日本編 -」 加藤寿夫

自らを“下手糞”だが、“我武者ら”さだけは負けないと語れる 中山雅史。チーム最年長34才のサムライは自身を闘魂の化身としてフィールドに立つ。
《康寿診報 第61号(2002.6)より抜粋》

日本には“侍ジャパン”と呼ばれるように その魂が宿っている。

今大会(前回 南アフリカ大会)優勝候補ブラジル・ドゥンガ監督が日本人魂を世界最高峰の高いレベルの中に持ち込もうと 規律を重んじ奮闘しているが、このような伝統は歴史の中に刻まれていく事柄でドゥンガであるから成りうる“事” ただし一筋縄ではいかない“事”であるようにも思う。《康寿診報 第152号(2010.7)より抜粋》

(第一に) ザッケローニ監督は 日本の絶対的キャプテンとし長谷部誠 を支柱と考え 揺るがない。長谷部の著書“心を整える。”で 精神科医・作家 齊藤茂太氏のエッセー <今日、「人事を尽くせば、明日はきっと「素晴らしい天命がくだる」と信じられる強さこそ、人間の最大の武器」と紹介されている。ただし大久保嘉人 選出は起爆剤…、であれば魂の拠り所とし 名古屋グランパス 闘莉王(33歳)、あるいは2012年秋から所属のウエスタン・ニ 最後の公式戦 アジアチャンピオンズリーグ (ACL) で サルツェヒ広島 撃破の 司令塔 小野伸二(34歳)[J2 コソト・札幌④ 6月移籍]、または 横浜・Fマリノス 中村俊輔(35歳)を 招集すべきと考えた。

(第二に) 予選第一試合 コートジボワール戦(6/15)、本田圭佑 の素早い切込みから 左隅へ蹴り込んだ 完璧なゴール。4年前の初戦 カメルーン戦の再現を思い浮かべたか…、足が止まり 攻守のメリハリ無く 変に守りに回り 2点目を奪いに行く姿勢に欠けた。異次元の存在感 後半15分 ドログバがピッチに立ちスイッチが入り 数分で2点の失点。勝負あり。

(第三に) 予選第二試合 ギリシャ戦(6/20)、前半終盤に相手選手の退場 断然優位 ここぞの状況 ここに結果を残せず 時間が経過、ポ

ール保有率68%と圧倒しながら 何か足りない ハングリー精神の無き日本、守備に専念する敵のゴールを割れず 0-0 引き分け。

(第四に) 予選最終戦 第三試合 コロンビア戦(6/25)、前半終了間際 執念の岡崎慎司 ダイビングヘッドのゴール 1-1の振り出しに戻した。後半開始早々「他会場の結果を知ってか? 2点差で勝ちにいったのか… あまりにも前がかり」これでカウンターを2発、さらにロドリゲスの落ち着いたループシュート 力の差を見せつける4点目 万事休す。後の祭りだが…「後半30分までは 守りに徹し カウンターだけの一発狙い、最後の15分 パワープレイで勝負」というような 作戦は出来なかったか?、W杯 決勝トーナメント進出とはならなかった。先発8人を入れ替えたとはいえ FIFA ランキング一桁のチームに対し、冷静にメリハリをもち 勝負に挑む姿勢、したたかさ・凄味の足りなさを感じる日本。今後に期待する。

(最後に) ギリシャが 同時刻開催のコートジボワール戦 最終最後 PKで 辛くも決勝トーナメントへ進出となる。「日本はコロンビア戦 勝てれば 決勝トーナメントへ進出」これを分かって 試合に臨めば 戦術も違っていたのかも知れない。「サッカーは 理不尽な競技」である。

“組織”の在り方 - 我が榛原医師会存続に必要・必至な事(その2) -

第108回 榛原医師会医師会総会 [2014.6.20.(金)開催]の報告 そして己の今後の姿勢本音で述べる事

今回の“榛原医師会役員改選”となる 医師会総会に際し、平成26年4月30日(水) 吉田・榛原会員連絡協議会の後、過去4年以上の長期に亘り 会長 高木平氏は無論 執行部と “話し合いの場” “交渉事” これの無き状態を顧み、50日余り 覚悟の上 行動してきた。毎日の様にアクセスを願うも 叶わず、最終的に「総会の場 会長は『議の場では無い』と申されますが 暫しの時間 いただければ幸いです」と印した [康寿診報第188号]と [榛原医師会執行部宛申上書(その ~)]の配付 事務方に願い 承諾されたものと思ひ、総会に臨んだ。さらに 何度にも亘り 議長に朗読をお願いした内容下記、すべては“無”とされた。

榛原医師会医師会総会 2014 [平成26]年6月20日(月)開催に於いて 議長に朗読をお願いした内容
 “榛原医師会執行部へのお願い” “話し合いの場”を持つ事 “交渉事”を放棄しない事 医師会が 我々医師の“個の集団としての意義”を持つ事 問題が生じた際“裁定が成される組織”である事
 以上、私 加藤寿夫が 執行部に求める内容 申し上げます。
 上記は 過去の榛原医師会総会 2011 [平成23]年6月27日・2012 [平成24]年6月25日開催にて 議長に朗読をお願いした内容と 全く同じ文面であります。また これ以外に 開示を願い “議”を願った“書”は かり知れませんが、今回 この朗読の内容は 総会議事録 榛原医師会会報に掲載の事 願います。

[榛原医師会執行部宛申上書(その ~)]の内容は (重要)と赤の捺印し 4度目の複写を 事務局に提示したが、事務局職員から 毎日返る言葉「はいわかりました」の声は“偽物”、キツネとたぬきに ばかされた。私 加藤寿夫の“書”が 会長・両副会長 はじめ 執行部に 提示・開示されている事、さらに 上記 朗読のにつき 議長が承諾の事、毎日の様に 事務局に確認を成し、これ以上 無言・隠蔽 「闇に葬る姿勢」は許さない・“ばかされない”のおもいから、録音・開示を告げた上での音声記録 [CD-R] 提示済。“ドリカム” <Red Card 編>に 添付する。
 過去 3年 5年 10年 何百回に及び 申し上げた内容、最低限役員改選の時期、簡潔明瞭に 具体的に 行動する事項を絞り、榛原医師会執行部に “書”を持ち示した内容 下記。

平成26年6月11日(水) 榛原医師会 執行部・会長 高木平氏宛の“書” [No.108 (榛原医師会執行部)・No.72-8 (高木平氏)・No.25 (事務局)]より抜粋
 私 加藤寿夫の 毎月の「編集委員会・役員会召集の事」 執行部・事務局より連絡願うも 対応無く、待機するも 音沙汰無く、心外で 呆れ果てます。再々 提示済 [榛原医師会執行部宛申上書(その ~)] 周知の上 “議”を成し 「無言・隠蔽 闇に葬る事」は 解除下さい。役員改選前 即刻成す“事”とし、両副会長 赤堀彰夫氏・石井英正氏に提示 メモリースティックは 返却下さい。
 事務局として 過去の康寿診報 “拉致監禁状態”にある本院から配付を願った出版物は [平成26年 2月10日付 榛原医師会からの連名の“書”]の誼事に従い 即刻返却願います。本院 加藤内科 医院事務員との話で「平成26年6月3日(火)夕方の便で すべて返却」との旨も 不履行。職員一同 榛原医師会事務局に不信を抱いております。
 会長 高木平氏 吉田町町長 田村典彦氏に連絡を取り ヨウ化カリ備蓄につき 確証を得る事、大川雅龍氏の件 [事項] 役員改選前即刻 裁定委員会で裁定の事。
 ~ 以上願います。決定事項 早急に報告下さい。
 兎に角、会長 或いは “責”ある者より 即刻連絡下さい。

3期目 会長再任の高木平氏には 毎日の様に 面談を願い、必要に応じ 医師会でも診療所へでも 出向く旨 医師会事務局は無論、最終的に 昨日 平成26年6月30日(月) 高木医院に 電話連絡を成すも “診療中”で 高木平氏は 私と話さぬ状況。高木医院事務員に「康寿診報の返却、加藤寿夫に連絡の事」伝えるも 返答無し。本日 平成26年7月1日(火) 本院 加藤内科 医院事務員が 高木医院に電話連絡も「この電話はお受け出来ません 御了承下さい」の音声。

今回 2014.6.20.(金)開催 第108回 榛原医師会医師会総会での“選挙の在り方”につき 選挙告示平成26年6月6日(金)の数日後から 不明点を提示、まとめたものが[下記]である。

2014.6.20.(金)開催 第108回 榛原医師会医師会総会での“選挙の在り方” 不明な点につき 説明を求めた内容
総会に際して 一点 確認しておきます。

“選挙の在り方”について 私が問うた事 4点確認します。

「定款では 理事7名以上11名以内」と謳われているが 今回何人が 何を持って決定したか？
無記名でと 記載されながら「投票用紙の右下にNo.」は 今回の選挙 記名なのか 無記名なのか？
理事選出後 理事会で 会長 副会長を選出との 説明だが (…候補)の記載は 不適切である事
第29条「別に定めるところ」

上記の内容を 教えていただきたい。

約2週間の“時” 毎日の様にアクセスし説明を求めたが、選挙管理人 会長 高木平氏からは 無論 執行部からも 何の説明も無いまま経過、最終的に 総会の席で[上記] 事務局 永田武氏 朗読の“事” これを願い、第108回 榛原医師会医師会総会を むかえた。当日 会長・両副会長 理事 そして議長・副議長 壇上11名を含め、議長の発言によると 出席者20名で 始まった。

第1号議案 榛原医師会次期役員等選任の件とし、いきなり 選挙が行われる 段取りが成された。私は 上記 につき 事務局に読み上げる旨 懇願したが、事務局は この“責”を放棄し 私が読み上げた。前以て 提示済であるが 議長には伝達されていたのか 疑問の残るところであるが、議長が説明を成した。上記 については 事務局 増田薫事務長が 誤りの在る説明を成した後、“動議”発言、先ず 選挙有き、高木平氏の予定した段取りであろうか… 事が成された。後日 執行部・高木平氏 さらに 両副会長 増田薫氏宛に 下記 “書”を提示した。

平成26年6月26日(木) 榛原医師会 執行部[No.112]・会長 高木平氏[No.73-3]宛 “書”の抜粋

何百回申しておりますが、何より 常識的な要件 「 両副会長 赤堀彰夫氏・石井英正氏に提示 メモリースティックは 即刻 返却」「拉致監禁状態の 康寿診報 配布していただけないのであれば 即刻 返却」下さい、大変 心外です。

事務長 増田薫氏には 申上書 の件、早急に訂正して下さい、さらに 平成26年6月20日(金) 総会の席 “選挙の在り方”について 私が問うた 第29条「別に定めるところ」の件 増田薫氏の答弁ついて 明らかな誤りが在った事、会報等 医師会 公の場に於いて 訂正願います。

毎日の様に 私が “師” “友” とする方に 現状報告する中で、南條輝志男先生が 第一声 申された内容 「医師会が 何故ヨウ化カリ備蓄を拒むのや…」との問いは すべての者 “師” “友” の おもいである。一定の“時”を経て 「私の未熟さがまねいた 確執によるもの…」と結論するが このまま終結すべき“事”では無い。「未熟さ」 特に物申す上での 確立されたもの 無き状態で 過去申した事」は 訂正・改善していく。ただし 「本筋において 完全に相手に非 [=否] の 在る“事”」 特に 「過去から現在 そして未来に引き摺っては ならぬ“事”」 これに対しては 何 度でも アクセスし 「訂正を促がす・迫る“事”」 これを 諦めてはいけない…」と 考えている。

私 加藤寿夫の “意” 今一度下記 に 本音で述べる。可能な“事”から 成す覚悟である。

「ヨウ化カリ備蓄・配付の問題」 チェルノブイリ、3.11の状況を鑑み 日本医師会のシンクタンク等 専門家の意見を尊重し 出来るだけ早期 最悪でも 今後 私に与えられた任期中に 榛南地区の家庭に備蓄される様に 仕向けます。

早期 半年以内に 「榛原医師会 広報 “心のひろば” を 復活」 発行させます。

「メタボ健診の問題」 榛原医師会 特に榛南地区で 地域住民の為に 啓蒙・教育を含めた 事後処理の 充実を図り、静岡県 の 日本 の 先進地区としての 取り組みが成せるように 仕向けます。

高木平氏・大川雅龍氏等 相手の都合により 風評より 成されている 私 加藤寿夫の評価。“事”はオープンに 真実を 嘘・偽り無く示し、編集委員会から 「“糖尿病のABC” 会報で紹介の願い」 につき報告無き事 大川雅龍氏の件 [事項] 等 正確に問い 訂正を 成させて いく。

《書籍『糖尿病のABC』出版》

定価：本体 1300 円(税別)で発売中です。

書店でお求めください。なお 本院窓口では 税込 1300 円で 配付しております。

《「ヨウ化カリウム丸 50mg」備蓄を！》

不測の事態に備えるにあたって

本院では 1シート 10錠 100 円にて 配布しております。

緊急時すぐに内服できる場所(仏壇・神棚の引き出し等)へ保管しておくことをおすすめします。

ヨウ化カリの備蓄は 行政等に頼る事無く 自ら確保・備蓄し、対処の仕方まで、知っておく事が 必要です。

「ヨウ化カリウム丸 50mg」は 劇薬ではありません
また 医師の処方が必要な 要処方薬でもありません。

「ヨウ化カリウム丸 50mg」は 直径 5mm の球形 赤茶の塊で ピンク色のビニールの袋で 10錠ずつ包装されてます。

放射性ヨード「¹³¹I」に 汚染された際は 40歳以下 特に 20歳以下であれば 絶対的に以下の量、体重 20kg 以上は 2錠 体重 10kg 以上は 1錠 体重 10kg 未満は 0.5錠の「ヨウ化カリウム丸 50mg」を 内服し、早急に汚染圏外に避難する事です。ヨードを含む造影剤による生命に関わるような副作用は 起こりません、原則 1回の服用とされますが、汚染された土壌から 避難出来ない場合は 圏外に出れるまで 一日一回 上記容量の内服をおすすめします。

40歳以上の方は ヨウ素剤の内服は必要ありません、ただし 妊婦については 上記の量の内服して下さい、
ただし 専門家の意見では、半年前頃から 40歳以上の方にも 全員に内服させようとの動きが出てきています。

《管理栄養士による栄養指導について》

当院は 2名の管理栄養士が 栄養指導を行う体制を整えました。当院の患者さんはもちろん、他院を受診 通院中の方でも 希望があれば 栄養指導を行います。気軽に声をかけて下さい。

外来栄養指導

- ・治療中の病名で対象となる方(糖尿病、脂質異常症、肥満、高血圧、心臓病、腎臓病、肝臓病、胃潰瘍等)へ 医師の指示の下、個々の生活習慣の見直しから 栄養指導を行います。
- ・その他 食事管理方法がわからず 病状の回復が思わしくない方、低栄養状態の方、治療食や嚥下食の食事作りに困っている方等、患者さんへ 治療食から流動食まで幅広く調理できるように 指導いたします。

訪問栄養指導

- ・訪問栄養指導では 管理栄養士が 通院困難な患者さんのご自宅にお伺いして、栄養状態のチェックをしてから、調理指導や買い物指導、栄養補助食品の紹介、嚥下食の作成、ヘルパーさんへの指導等を行い、安心して在宅療養生活をお送りいただけるような 食事生活プランを作成します。お気軽にご相談ください。



《臨時休診のお知らせ》

休診日：日曜・祝日 木・土曜の午後
お薬を切らさないように 気を付け下さい。

8 / 1(金)・2(土)・15(金)・25(月)、9 / 22(月)は 臨時休診です。7月 は 臨時休診はありません。